

## ○玉名市地球温暖化対策実行計画 令和元年度進捗状況

### 1 温室効果ガス総排出量の比較

本市の事務事業における2019年度（令和元年度）の温室効果ガス総排出量は、基準年度となる2013年度（平成25年度）と比較して42.5%の減となりました。

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
排出量(t-CO <sub>2</sub> )	14,003	13,123	11,689	10,616	10,366	7,945	8,053
予測排出量(t-CO <sub>2</sub> )	—	—	—	—	10,428	10,382	10,207
増減率(2013年度比)	—	-6.3%	-16.5%	-24.2%	-26.0%	-43.3%	-42.5%

### 2 電気・その他エネルギー別使用量の比較

電気やその他のエネルギーの使用状況は、以下のとおりです。

項目(単位)	2013年度 (基準年度)	2019年度	増減量	増減率
電気使用量(kWh)	18,711,939	17,240,999	△ 1,470,940	-7.9%
ガソリン使用量(ℓ)	60,364	64,743	4,379	7.3%
灯油使用量(ℓ)	267,459	203,400	△ 64,059	-24.0%
軽油使用量(ℓ)	9,275	6,491	△ 2,784	-30.0%
A重油使用量(ℓ)	425,201	353,707	△ 71,494	-16.8%
LPガス使用量(m <sup>3</sup> )	30,934	19,602	△ 11,332	-36.6%

### 3 温室効果ガス総排出量増の主な理由

- ・設備機器の高効率化やコロナ禍による施設の利用数減により、電力及びその他エネルギー使用量は減少しています。
- ・2018年度と2019年度の電力使用に伴う二酸化炭素排出係数を比較すると、0.025 kgCO<sub>2</sub>/kWh 上昇しており、電力起因となる二酸化炭素換算排出量が増加しました。その結果として、市全体の温室効果ガス総排出量が108 t-CO<sub>2</sub>増加しています。

#### ◆二酸化炭素排出係数とは◆

電気の供給1kWhあたりどれだけの二酸化炭素を排出しているかを示す数値のことです。

九州電力に今後の排出係数の推移予測を確認しましたところ、「不特定な要因が多く、見通しを示す事は困難ですが、安全を大前提とした原子力発電の活用や再生可能エネルギーの活用等に取り組んでいくことで、今後も更なる電力起因二酸化炭素の排出削減に最大限努めていきます。」との回答でした。

#### 4 今後の課題等

令和元年度における温室効果ガス総排出量増加の要因は、電力使用に伴う二酸化炭素排出係数が昨年度から上昇したことが大きな要因となっています。

電力使用に伴う二酸化炭素排出係数は不特定な要因が多く、今後の推移は予測できないため、さらに係数が上昇することも考えられます。

温室効果ガス総排出量を減少させていくには、係数だよりになるのではなく、エネルギー源の消費量自体を抑制・削減していくことが重要となります。